飛鳥

方面総監統率方針
任務完遂

発行所
陸上自衛隊
中部方面総監部広報室
〒664-0012
兵庫県伊丹市緑ケ丘7-1-1
電話：０７２（７８２）０００１

災害派遣

三重県津市におけるＣＳＦ（豚熱）発生に係る災害派遣

令和３年４月14日（水）、三重県津市に所在する養豚場で豚熱（ＣＳＦ）が発生し、三重県知事からの災害派遣要請に基づき、第10師団（師団長　中野陸将）隷下の第33普通科連隊（連隊長　向田１佐）が派遣された。本災害派遣では豚舎内における豚の追い込み作業や殺処分した豚の運び出し等を実施し、４月17日（土）撤収要請に基づき災害派遣を終了した。

搬送準備

作業現場への前進

作業後の消毒

中部方面隊に約２，４００名が入隊

４月上旬、中部方面隊管区内の各駐屯地において、一般曹候補生及び自衛官候補生の入隊式が行われた。昨年と同様に、新型コロナウイルス流行下での入隊式となり、感染予防に留意しつつ粛々と各地で入隊式が行われた。

総勢約２，４００名の入隊者は、新しい制服に袖を通し、入隊申告及び服務の宣誓等を堂々と行い、自衛官としての第一歩を踏み出した。

日本原駐屯地

大津駐屯地

信太山駐屯地

松山駐屯地

方面隊統制演習場春季整備

中部方面隊（総監　野澤陸将）は、４月15日（木）から27日（火）までの間、第３師団長（師団長　山根陸将）及び第13旅団長（旅団長　兒玉陸将補）を担任官とし、あいば野演習場及び日本原演習場において約３，１００名が参加する「令和３年度方面隊統制演習場春季整備」を実施した。

総監は、演習場整備の状況を現地視察し、使用者視点に基づいた整備が実行されていることを確認した。

上古賀南道暗渠の新設（あいば野）

方面総監による現場指導（日本原）

疎林化に伴う伐採（あいば野）

伐採木を積載する隊員（日本原）

新型コロナウイルス教育支援

スライドにより教育を行う隊員

令和３年１月、第３師団（師団長　山根陸将）は大阪府からの依頼に基づき、新型コロナウイルス感染者宿泊療養施設において、感染防止等の教育支援を実施した。

教育支援内容は、タイベックスーツ等の着脱要領や消毒要領等に関するものであり、関係職員の知識や対応能力の向上に寄与した。

新型コロナウイルス教育支援は昨年から実施されており、地元との信頼を更に深めるための一助となっている。

第３師団　バトラ戦闘訓練

周囲を警戒する隊員

第３師団（師団長　山根陸将）は、令和３年４月１日（木）から15日（木）までの間、青野ヶ原演習場において、令和３年度第１回師団統裁バトラ戦闘訓練を実施した。

本訓練は、バトラ（※）と呼ばれる装置を用いることにより、中隊が攻撃と防御に分かれ、対抗方式によるリアルな環境で訓練が実施された。参加した部隊は、この実践的な訓練により、更なる練度向上を図ることができた。

※バトラ
実弾の代わりにレーザー光線を使用し、実戦に努めて近似した交戦状況を模擬できる装置

YouTubeで動画配信中！

「はたらくくるま」より

中部方面隊では中方YouTubeチャンネルにおいて動画を配信中です。「ダーツの旅」シリーズや「現役自衛官　命がけの掃除」や「最強のはたらくクルマ」等を公開中です。

まだご覧になっていない方は、是非ご覧下さい！

飛鳥が休刊となる期間も動画の更新は続きますので引き続き中方YouTubeチャンネルをよろしくお願いします！

〈中部方面隊〉
公式
ホームページ

〈中部方面隊〉
You Tube
チャンネル

飛鳥休刊のお知らせ

飛鳥５月号、６月号は休刊します。

飛鳥は時代の流れに対応するため、リニューアルを検討します。

そのため、５月号、６月号については休刊させていただきます。

リニューアル版の飛鳥は７月号（８月上旬頃発刊）から再開予定です。

中部方面総監　部隊視察

装備品視察（松山駐屯地）

部隊長との懇談（高知駐屯地）

装備品視察（今津駐屯地）

中部方面総監（野澤陸将）は４月７日（水）８日（木）及び21日（水）に松山駐屯地、高知駐屯地及び今津駐屯地の部隊視察を行った。

中部方面総監は、各駐屯地等において装備品視察や部隊長との懇談、隊内巡視等を通じて現況を確認するとともに、訓話により統率方針及び要望事項を周知した。

宝塚音楽学校
生活体験支援

基本教練を演練する予科生

中部方面通信群（群長一戸１佐）は、４月13日（火）、伊丹駐屯地において、宝塚音楽学校に入学する第１０９期生40人の予科生（※）に対する生活体験を支援した。

予科生は、基本教練を通じて、号令に基づく節度ある動作を身につけて訓練を終了した。

※予科生
宝塚音楽学校は２年制の学校。１年生は予科生、２年生は本科生という。

ふぁみさぽ通信（連載：第５３回）

関西補給処桂支処

関西補給処桂支処は、京都市に所在する唯一の駐屯地ですが、現在、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、家族支援施策に関する関係部外団体との連携が難しい状況です。このため、今回の投稿は過去に良好であった施策及び今年度実施した留守家族名簿ツールの整備について紹介します。

当駐屯地は、平成27年から関係部外団体との連携を開始し、駐屯地記念日等の行事を通じて段階的に関係を構築してきました。

過去の実績としては、平成29年５月の京都府家族会と京都府隊友会及び京都府内の４コ駐屯地（桂、宇治、大久保、福知山）による合同会合、同年６月の京都市７地区会長の南海レスキュー訓練研修、平成30年４月の桂駐屯地桜並木公開における隊員家族と家族会の顔合わせ、令和元年５月の家族会主催によるジビエ料理を囲んでの厚生班員と隊員家族との交流がありました。

昨年度は、留守家族名簿の整備を実施したところ、留守家族名簿上での支援要望と隊員家族の実際の支援要望とに差異があることが判明しました。このため、各部隊長指導のもと、留守家族名簿における支援要望の確認・修正を実施しました。

令和３年度は昨年度の留守家族名簿の整備を基に家族会等関係部外団体へ最新の情報を提供し、新型コロナウイルス感染症対策の徹底を図りつつ、マッチング、顔合わせ、実動訓練等を実施していく予定です。

家族会主催のジビエ料理を囲んでの交流の様子（令和元年５月）

家族会との顔合わせの様子（令和元年５月）

CSMの提言

第３戦車大隊
最先任上級曹長
（今津駐屯地）
准陸尉
掛橋　健

各部隊におかれましては、いかにして隊員を育成するかということについて日々苦労しながら指導されていると思います。

今津駐屯地では、敬礼の不履行、服装の乱れ等の問題認識から、令和２年３月より各部隊の最先任上級曹長等で会同を開き、服務に関して、現状、在るべき姿及び問題点を明らかにし、その対策として駐屯地の躾事項（ルール）を作成して令和３年４月から規則化しました。今津駐屯地では他師団隷下部隊及び方面隊直轄部隊等が混在しており、それぞれの指揮系統ごとに決まり事がありますが、本規則により「与えられた任務」を達成するため、服務の本旨に立ち返り、同じ認識のもとで躾（ルール）を理解させるとともに、駐屯地内で一貫性ある指導が可能となりました。

躾という漢字は「身」と「美」から成り、「身だしなみや、身の回りを美しくする。」と解釈できます。しかし、外見を改める前に、まずは内面を改める必要があります。何事にも目的があり、その目的を達成するためには何をすべきかを理解することが重要です。「統制」だから、「前からやってる」からではなく、時間を守る、挨拶や敬礼、整理整頓など躾には、それぞれに意味があります。理解できない隊員には、声をかけ、やって見せて気付かせなければなりません。それらの躾を継承していくことにより、点検や注意をせずとも躾事項を守ることが当たり前となり、皆が同じ方向を向いて任務に邁進できる部隊の伝統が定着するものと思います。

第３戦車大隊は、令和３年度で創隊59周年、今津駐屯地は69周年を迎え、節目の年を目前に控えています。これまで築き上げた部隊の良き伝統を継承しつつ、内面から誇れる隊員を育成していきたいと考えています。

地本のチカラ

（連載第２４回：福井地本）

福井地本（本部長　１等海佐　東　良子）は、陸上自衛隊の鯖江駐屯地及び金沢駐屯地（石川県）、海上自衛隊の舞鶴基地（京都府）、航空自衛隊の小松基地（石川県）をはじめ、関西圏及び中京圏へのアクセスが容易である地理的特性を活かし、各部隊の協力のもと積極的な広報活動を展開してきました。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、令和２年度は従来行ってきた艦艇の一般公開や航空祭に合わせた基地見学等の人気があり、多くの方々が来場される各種広報活動を行えませんでした。

密を避けなければならない環境下において、ＳＮＳはこれに対応できる重要な情報発信ツールです。しかし、０と１の世界を挟んだコミュニケーションだけでは「白」か「黒」か、といったことは解っても、「灰色」のように行間を埋めることは困難です。また、感染防止対策を取りつつ対面での各種広報を実施することは、募集対象者のニーズのみならず、防衛省・自衛隊に対する具体的なご意見を拝聴できる貴重な機会でもあると言えます。

商業施設内の広報ブース

このため、福井地本は、令和５年度に計画されている福井募集案内所移転に伴い、廃止される広報センターの代替として、常続的な広報ブースの確保と展示を試みました。

具体的には、福井県最大の商業施設の目抜き通りに広報ブースを設置し、平日は気軽に各種パンフレットをお持ち帰りいただき、休日は当該ブースにて地本員による各種広報活動を実施しました。このような努力により、募集対象者のみならず幅広い年代に防衛省・自衛隊の情報を発信できたと自負しています。

新型コロナウイルス感染拡大がなかなか終息しない状況下ではありますが、福井地本は地域と自衛隊の掛け橋として全部員が一丸となり、これからも任務に邁進して参ります。